

自分で自分を伸ばす力

勉強のやり方を身につければ、成績は伸びるのでしょうか。一般的な思考力と記憶力を備えた生徒さんならば、100%イエスと言えるでしょう。

しかし、勉強の方法について学校や塾で十分な指導を受けているにもかかわらず、なぜ成績が向上しないのでしょうか。それは勉強の方法よりも前にある問題です。つまり、やる気が足りないのです。こうした生徒さんたちに対して、指導しても成果は出にくいでしょう。やる気のない生徒さんに対して、

「言うことを聞かない」

「指示通りにやらない」

といったことを指摘しても解決にはなりません。指導者は彼らを理解し、彼らの心に寄り添うことが大切です。

私自身は、昼間はこども園の園長として働き、夜は塾で指導しています。塾以外で生徒さんたちとじっくり向き合う時間は、土日のランチタイムです。堅苦しい面談ではなく、彼らが何でも話せる存在になるよう努めています。彼らの話を聞いていると、やる気を引き出すヒントが見つかります。もちろん、このようなヒントを引き出すには、質問のセンスが求められます。

食事を共にしたり、一緒に運動したり、家を訪問することで、生徒さんたちは心を開いてくれます。徐々に信頼関係が築かれ、初めて指導のスタートラインに立てるのです。

一人ひとりに合わせたカリキュラムを提供し、宿題も個別に設定します。サイズの合わない靴では歩けないのと同じで、専門家である私が生徒さんたちに合わせてサポートしなければ前進する一歩を踏み出すことはできません。しかし、一度歩み出せば、もはや止まることはありません。彼らは自発的に勉強するようになり、自分の目標に向かって歩み始めます。

私自身は、数学や物理など教え方は予備校の先生方に比べて到底及びません。しかし、下位の生徒さんであっても、その子の心を掴み、前進させることに情熱を注いでいます。彼らが復活するまでに必要なすべてを試みるのです。なぜなら、成績が悪いことだけで失望するのはもったいないからです。しかも中高生に対して「勉強だけが人生じゃない」と慰めても解決はしません。子どもたちの心を掴むことができれば、成績は確実に向上します。むしろ、私自身の本気が子どもたちから求められているのです。



彼は自分で自分をどこまで連れていくのだろう

ごくごく一般的な生徒さんが小学4年生のときにきてくれました。以来、彼自身に合わせて指導してきました。城東中学では10位からスタートして学年2位へ。その頃から佐賀大学医学部医学科に推薦で合格という目標を持ち始めました。自分で自分を伸ばす力を育んでいるので高校入学までには英語は高校3年生と一緒に共通テスト解き、数学は数Ⅲを残すだけとなりました。佐賀西高校に進学後は30位スタートで早々に学年1位に。志望大学がA判定になり、遂に駿台模試で九州大学医学部医学科までもがA判定に。

ある時、「先生相談があります。」と。およそ3時間にわたる話でした。「ずっと目指してきた医師になるのを辞めようと思います。東大を目指そうと思います。」

九州大学医学部医学科A判定で安定しているし、志望者の中ではほぼトップクラスなのに。しかも私自身は医学部医学科合格までに必要な能力や心構え、そしてカリキュラムは受験科目すべてにおいて把握しています。実際にここ数年で医学部医学科に6名が合格しているのです。しかし東大受験を指導した経験がありません。

「僕は東大に合格するまでのプロセスを知らないよ。」と言うと「勉強は自分でやります。一緒に受験までのカリキュラムを相談させて下さい。」

クオリティゼミナールが目指している

「自分で自分を伸ばす力を身につける」

を目の当たりにした瞬間でした。



池松英治 (いけまつ ひではる)
クオリティゼミナール塾長
社会福祉法人ガジュマル理事。ひよ子こども園園長。
小学生から大学受験まで指導。勉強が苦手な生徒さん、支援が必要な生徒さんを丁寧に指導。不登校の生徒さん及びご家族と向き合い復活させている。ここ6年で6人の医学部医学科合格。

